



おおもとくにみつ
大本邦光議員

小児がん網膜芽細胞腫の
早期発見について問う

議員 乳幼児健康診査の実施において網膜芽細胞腫で現れる白色瞳孔や斜視の症状を見逃さないための市の取組についてたずねる。

こども部長 特に3歳児健診においては、市内眼科医からの助言に基づき、令和元年度に専門機器であるスポットビジョンスクリーナーを導入し、視力の成長を阻害する斜視や遠視及び乱視等の屈折異常を検査している。子どもの視力は生後0歳から7歳くらいまでの間に発達し完成するため、幼児期には視力の発達が阻害されていないか、異常の早期発見が重要となる。今後も治療の必要な状況の早期発見に努め、精密検査が必要と判断された場合は速やかに医療機関への受診勧奨を行い早期治療に繋げてまいる。



新しい生活様式における
図書館のあり方について問う

議員 図書が必要としている人に図書を提供するための宅配サービス等についてたずねる。

教育部長 本市では、重度心身障害者等図書貸し出し規則による障がい者への郵送貸出を行っており、今後も、制度のPRを含め、利用促進を図ってまいる。また、図書館サービスの向上、利用者の満足度向上に有効な方策を研究してまいる。

議員 電子書籍の導入など非接触型のサービスについてたずねる。

教育部長 県立図書館で導入に向けた方策を検討するという方針も出ていると聞いている。本市においても県内の状況等を考えながら、導入について検討したい。



もりおか さとこ
森岡聡子議員

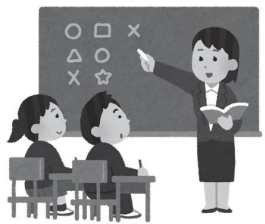
人口減と新型コロナウイルス禍
における市政について問う

議員 本市は県内における人口減少数が最も多い。市民は市長の手腕、リーダーシップの発揮を期待している。所見をたずねる。

市長 地元への企業誘致を公約の一丁目一番地に挙げ、固定資産税の増や市内企業で働く方の賃金の上昇を実現している。自治体行政の原点である市民第一、現場第一の視点で、誰一人取り残すことのないまちづくりを進めてまいる。

議員 高齢者などデジタル弱者への対応についてたずねる。

市長 スマホ教室等を公民館などで開催している例もあるが、高齢者の方々もデジタル化社会に向けて楽しんでいただく環境を作っていききたい。



本市の教育
について問う

議員 義務教育9年間の系統性のある指導が推進される中で、今後の方向性と課題についてたずねる。

教育長 令和5年度から小中一貫教育を完全実施できるよう進めてきた。令和8年度から10年度までに施設一体型小中一貫校を金浦中、新吉中、神島外中ブロックに設置予定である。課題は、コロナ禍による異学年交流や共同学習の減少、各ブロック内での打合せや協議に係る教職員の時間の確保がある。

議員 ヤングケアラーについて本市の取組をたずねる。

教育長 状況把握を現場の教職員が行い、情報収集を教育委員会等が主体となつて行う。必要に応じて関係機関と連携を図り対応する。